キャンパスの四季　Four Seasons in SHC　(No.9)　2014/06/30

＜傾国＞キャンパスには開設の頃に根付いたネムの大きな木が２本あります。ちょうど花が満開で遠目の眺めがみごとです。梅雨空でも青空の下でも甘い香りが漂い風情があります。ところでこの花は蕾が膨らみ色づき出すことなく朝見れば突然に咲きだしていたという感がします。近くで眺めるには萎れた花の一つもない咲き出しのときが一番でしょう。まさに傾国の美人！「象潟（さきかた）や　雨に西施（せいし）が　ねぶの花」（松尾芭蕉、奥の細道）はこういうネムを詠んだのではと思います。一方、「合歓咲く七つ下りの　茶菓子売り」（小林一茶）は青空の下での満開のネムでしょうか。（傾国）「一顧すれば人の城を傾け再顧すれば人の国を傾く」より絶世の美人を言います。その一人が西施（BC5 世紀）。

＜ネムノキ＞

＜百人一首＞芝地にはニワゼキショウに加えネジバナ（別名：モジズリ）があちこちに姿を見せています。ネムと同じく昔から和歌に詠われており百人一首にも河原左大臣の歌に登場します。小さなピンクの花が茎にらせん状に付いています。一時、左巻きが随分多いのではと思っていたのですが新に調べてみるとそうでもなさそうです。それにしても何故に捻じれるのでしょうか？（河原左大臣）嵯峨天皇の皇子、源融で光源氏のモデルとも言われています。「みちのくのしのぶもぢずり誰ゆゑにみだれそめにし我ならなくに」この“もぢずり”は模様の捻じれた“信夫もぢずり”という織物です。むしろネジバナの別名モジズリの源でしょうか。

＜ネジバナ＞

＜マテバシイ＞

＜ホタルの季節＞今年も 5 月の末からビオトープではゲンジボタルが少ないながら見られました。今はホタルブクロの咲き誇る季節でもあります。また池では今ハンゲショウが美しく、コウホネ、ヒシ、ヒルムシロなども元気いっぱいです。近くの林ではマテバシイが地味な花を咲かせ小さな実を付けています。このシイは“念入り”で 2 年がかりで実を稔らせます。

＜ホタルブクロ：上＞＜ハンゲショウ：下＞

＜ヤマガラ＞

＜おみくじ＞雑木林ではいろんな小鳥の鳴き声を耳に、姿を目にしますが、とりわけ目に付くのがヤマガラです。先日、樹上ではなく野原で虫を啄ばんでいるところを見かけました。ヤマガラは人懐っこく賢い小鳥です。籠から出てきておみくじを引く姿を神社の祭りで見かけたものです。でも今やおそらく絶滅の風物詩ですね。（文と写真：松本正勝）